

## [成果情報名] ジャノヒゲ類の生薬バクモンドウ形成に関する特性調査

[要約] ジャノヒゲ類の生薬バクモンドウを含む塊根は、株分け時期5月以降、12月まで発生が認められず、12月以降に形成され、特に3月から5月に肥大する。

栽培品種は、中国産のジャノヒゲが株あたりの塊根部の重さ、一個当たりの重さで優れ、栽培方法については、根圏ストレスを与えず、夏場遮光処理をすることにより、塊根部の生育が増加する。

[キーワード] ジャノヒゲ類 生薬 バクモンドウ 塊根

[担当] 三重県農業研究所 花植木研究課

[分類] 研究

---

### [背景・ねらい]

現在、国は薬用作物の国産化を推進しているが、本県の植木産地で栽培される緑化植物の中には薬用作物として活用可能な品目が多い。その中で、約9haの栽培面積を有し、出荷額全国1位（シェア40%）の産地を形成しているジャノヒゲ類は、消炎、滋養強壮、鎮咳等の効果を有する薬用作物としての需要が高いにもかかわらず、国内需要全量を輸入に頼っているのが現状である。

そこで、国内生産を行うためジャノヒゲ類の生薬バクモンドウについて、時期や栽培条件の違いによる塊根の肥大について明らかにするとともに、国内の品種と中国産のジャノヒゲについて比較し生産の指針とする。

### [成果の内容・特徴]

1. ジャノヒゲ類の生薬バクモンドウが得られる塊根部について、12月ごろから塊根が発生、肥大が認められ、その後緩やかに増大し、3月から5月の株分け前に急激に増加する。（表1、図1）
2. 株あたりの塊根部（バクモンドウ）の重さは、中国産ジャノヒゲが最も重くなり、国内のジャノヒゲ類の中では栽培種のジャノヒゲが一番重くなったが、中国産の約1/4である。（表2）
3. 栽培方法について、根域制限しないこと、夏場に遮光処理を行うことにより株あたりの塊根重は大きくなる。（図2）

### [成果の活用面・留意点]

1. 鈴鹿市西部の植木産地の露地黒ボク土壌条件下で活用できる。

[具体的データ]

表1 品種別時期別の生育(H28.5)

	調査日	草丈mm	芽数	根長mm	地上部重g	地下部重g
タマリユウ 慣行区	12月16日	97.6	9.6	181.7	14.9	11.4
	1月27日	103.6	7.7	220.3	18.2	25.5
	3月24日	96.4	9.4	215.4	11.2	18.8
	5月24日	99.1	11.3	230.1	24.0	35.5
ジャノヒゲ 慣行区	12月16日	252.4	7.1	182.1	12.4	9.7
	1月27日	251.6	6.7	189.4	20.6	24.0
	3月24日	244.5	6.7	175.0	13.2	13.5
	5月24日	397.8	11.9	341.4	54.4	35.4

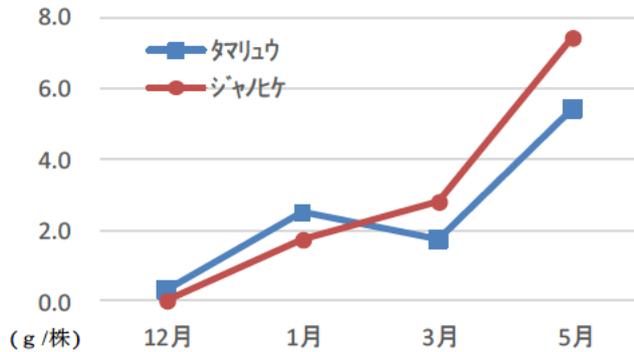


図1 品種別株あたり根塊重の推移(H28)



ジャノヒゲのバクモンドウ  
(中国産) (国産)

表2 ジャノヒゲ類の品種別生育と塊根の生長量(H29.6)

品種	草丈 (cm)	芽数 (cm)	塊根数	塊根長 (mm)	塊根幅 (mm)	1個あたりの重さ (g)	塊根重 (g)
タマリユウ	11.4	10.3	36.2	20.3	5.7	0.22	8.0
ジャノヒゲ	18.7	9.9	75.5	22.6	5.4	0.19	14.3
ジャノヒゲ自生(短葉)	27.7	10.0	12.6	17.1	7.1	0.32	4.0
ジャノヒゲ自生(長葉)	31.5	10.0	36.6	20.9	9.0	0.32	11.8
中国産ジャノヒゲ	35.0	21.7	78.0	40.6	8.0	0.76	59.0

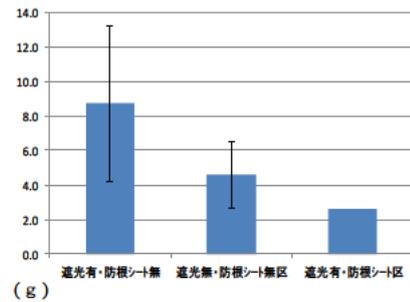


図2 試験区別株あたり塊根重(H28.5)

[その他]

研究課題名：ジャノヒゲ類の生薬バクモンドウ形成に関する特性調査

予算区分：薬用植物供給体制構築事業

研究期間：27～29年度

研究担当者：小林 泰子 内山 達也

発表論文等：なし